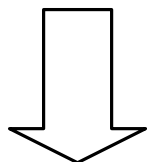
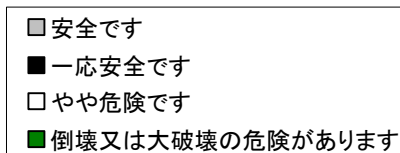
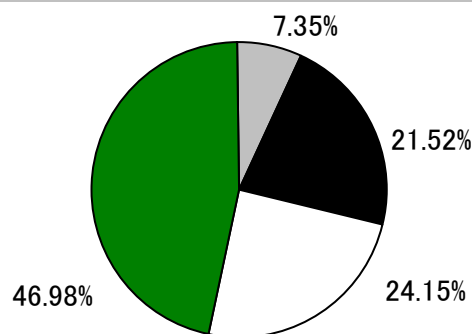


旧診断受診者の新診断結果 (平成18年8月1日～平成18年11月30日/木耐協調へ)

木耐協では、過去に耐震診断（旧診断）を受診された方へ新耐震診断をご案内いたしました。その中で新診断を実施された381件について、診断結果を分析いたしました。

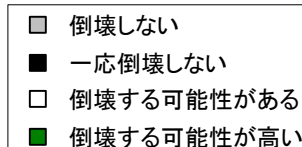
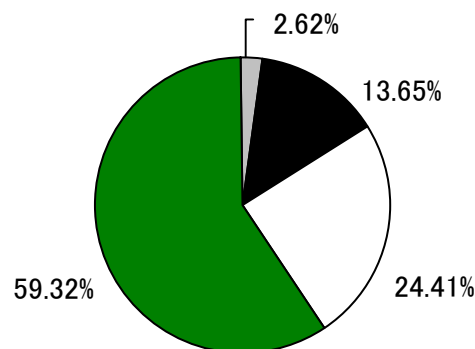
■ 旧耐震診断による診断結果

| | | |
|-----------------|-----|--------|
| 安全です | 28 | 7.35% |
| 一応安全です | 82 | 21.52% |
| やや危険です | 92 | 24.15% |
| 倒壊又は大破壊の危険があります | 179 | 46.98% |
| 合計 | 381 | |



■ 新耐震診断による診断結果

| | | |
|------------|-----|--------|
| 倒壊しない | 10 | 2.62% |
| 一応倒壊しない | 52 | 13.65% |
| 倒壊する可能性がある | 93 | 24.41% |
| 倒壊する可能性が高い | 226 | 59.32% |
| 合計 | 381 | |



■ 診断項目の増加に伴い、総合評点が下がる方向に

旧診断と新診断を両方受診された方の総合評点を比べると、全体的に下がっている事がわかります。総合評点が1.0を下回る割合が旧診断では71.13%だったのに対し、新診断では83.73%となり約13ポイントの差が出ています。

新診断において「接合部」「床仕様」などの評価項目が増えたことや、新診断では2階も評価対象となっていることが、診断の結果に差が出ているものと思われます。

■ 旧診断から新診断で評点が上がっている診断結果

| 新耐震診断(一般診断)での評点 | 旧耐震診断での評点 | | | | | | | |
|-----------------------|-----------|--------|-----------|--------|-----------|--------|-------|--------|
| | 1.5以上 | | 1.0～1.5未満 | | 0.7～1.0未満 | | 0.7未満 | |
| 1.5以上 倒壊しない | 5 | 17.86% | 5 | 6.10% | 0 | 0.00% | 0 | 0.00% |
| 1.0以上1.5未満 一応倒壊しない | 8 | 28.57% | 25 | 30.49% | 7 | 7.61% | 12 | 6.70% |
| 0.7以上1.0未満 倒壊する可能性がある | 7 | 25.00% | 27 | 32.93% | 28 | 30.43% | 31 | 17.32% |
| 0.7未満 倒壊する可能性が高い | 8 | 28.57% | 25 | 30.49% | 57 | 61.96% | 136 | 75.98% |
| 総数 | 28 | | 82 | | 92 | | 179 | |

■新診断で、約15%は診断結果が上昇している

基本的には前述のとおり総合評点が下がる方向にある新診断ですが、約15%（55件）において旧診断よりも総合評点が上昇している事がわかります。
考えられる理由としては、次の3点が挙げられます。

①基礎・地盤の評価の違い

旧診断では基礎・地盤も評価項目とされており、下表のとおり低減がかけられておりました。しかし、新診断において基礎・地盤は直接評点に反映されない項目とされているため、結果として下がっていた評点が上がる方向になっていると考えられます。

【旧診断における基礎・地盤の評価】

| 基礎 | 地盤 | 良い地盤 | やや悪い | 非常に悪い |
|--------------------|----|------|------|-------|
| 鉄筋コンクリート | | 1 | 0.8 | 0.7 |
| 無筋コンクリート | | 1 | 0.7 | 0.5 |
| ひび割れのあるコンクリート造布基礎 | | 0.7 | 0.5 | 0.3 |
| その他の基礎(玉石・石積・ブロック) | | 0.6 | 0.3 | 0.1 |

②雑壁の評価の違い

旧診断では、垂壁・腰壁などの雑壁については耐力の取れる壁として評価しませんでした。新診断においてはそれらを耐力のとれる壁として評価するようになったことが、総合評点が上がるひとつの要因として挙げられます。

③偏心率が評点に与える影響の違い

旧診断では、偏心率15%以内は評点1.0とされ、15%を超えるとそこから評価が下がりました。しかし新診断では偏心率30%までは1.0と評価されるため、その15%～30%の間に入る偏心率の評価が上がっており、結果として総合評点が上がる要因になっています。